

西土佐小学校 第1学年 生活科 学習指導案

令和3年11月11日(木) 第5校時

児童数

10名

指導者

柴園美

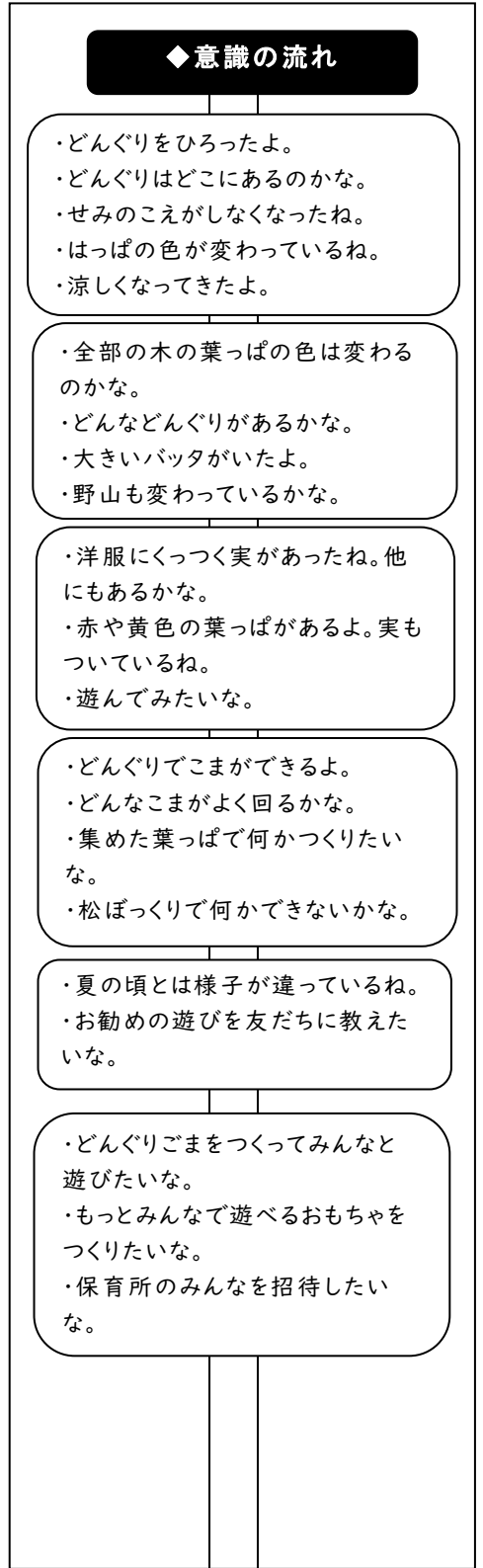
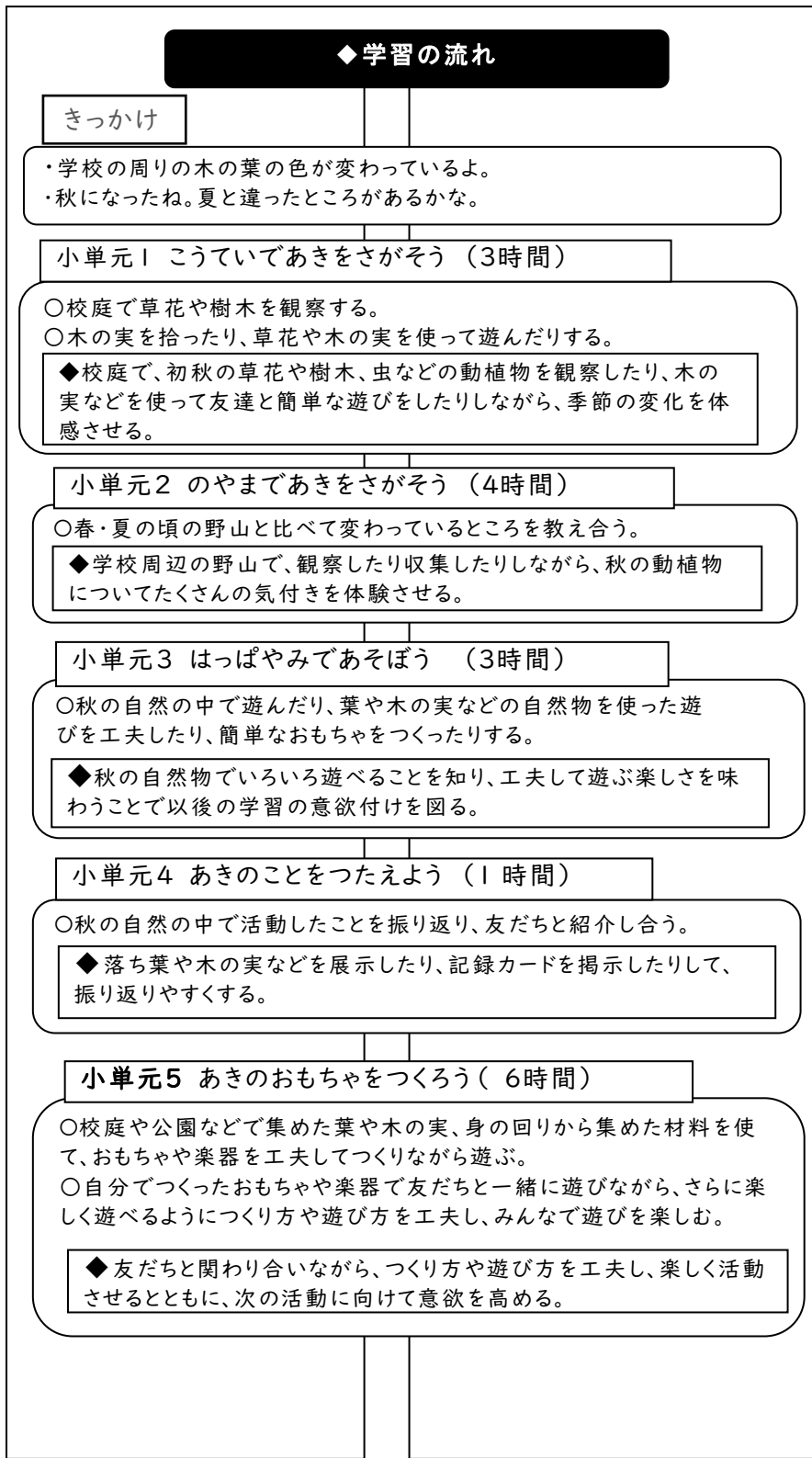
1 単元構想図

単元名 「たのしいあきいっぱい」 全21時間
 内容 (5)(6)季節の変化と生活・自然や物を使った遊び

単元1
 「なつがやってきた」
 (8時間)

単元2
 「たのしいあきいっぱい」
 (21時間)

単元3
 「ふゆをたのしもう」
 (9時間)



小单元6 いっしょにあそぼう 4時間

- 自分たちがつくったおもちゃや楽器で園児と一緒に遊ぶ計画を話し合い、準備する。
- 園児と一緒に遊びを楽しむ。

◆園児と一緒に遊ぶ計画を立てる中で、ルールを守ることの大切さにも気付かせ楽しんで遊べるように場を整える。

- ・保育園のみんなと仲良く遊びたいな。
- ・招待状もつくりたいな。
- ・楽しく遊ぶにはどうしたらいいかな。
- ・遊び方のルールはどうしたらいいかな。

単元でつきたい力

- ・自然の様子や四季の変化に気付く。【知識及び技能】
- ・身近な自然を使って遊びや遊びに使うものを工夫してつくる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・身近な自然を取り入れ生活を楽しむ。【学びに向かう力、人間性等】

2 単元について

○単元観

本単元は、学習指導要領の内容（５）季節の変化と生活（６）自然や物を使った遊びを受けて設定したものである。

本単元は、秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びや遊びに使うものを工夫してつくり出すことなど、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようにすることができるようにすることをねらいとしている。

児童は、身近な校庭や野山の木々の紅葉や木の実、虫の種類の変化、気温の変化などに気付き、自然との触れ合いを深め自然の面白さや不思議さを体感し、気付きの質を高めていく。さらに遊びや遊びに使うものをつくりたいという思いの実現に向けて、友だちと関わりながら意欲的に体験や表現を繰り返す中で、自然を自分との関わりで捉え、生活を豊かにしていくことができる単元である。

児童一人ひとりが対象との関わりをさらに深められるように活動や体験を充実させるとともに、気付いたことを基に考えることができるよう、試す・見通す・工夫するなどの多様な学習活動を行う必要がある。また、友だち同士の関わりもさらに深め、話し合いや共同の活動などを通して気付いたことを意欲的に発表し合うことで、気付きの質を高めるようにできないか考える。

○児童観

本学級の児童は、1学期の「どきどきわくわく1ねんせい」や「がっこうだいすき」の学習の中で、校庭に咲いている花や虫を見つけ、楽しく遊んでいた。また、2年生と学校周辺の山にも探検に行き、春の草花を見てきた。さらに、「なつがやってきた」の学習では、校庭や学校周辺の夏の自然と関わる活動を通して、春と夏で季節が変化していることにも気付いた。また、友達と関わりながら、ダンゴ虫やカナヘビなどの小さな生き物を飼ったり、朝顔や他の草花を使った色水づくりなど身近な自然を使った遊びをしたりするなどして、夏の生活を楽しく生き生きと過ごしてきた。

1学期に行った生活科の意識調査でも「生活科の授業は楽しい。」「生活科で学習していることを一生懸命考えている。」の問いに全員が肯定的な評価をしており、学習にも意欲的に取り組んでいる。しかし、気付きの質を高めることは十分にできていない。

○指導観

小单元1では、校庭で、秋の草花や樹木、虫などの動植物を観察したり、木の実などを使って友だちと簡単な遊びをしたりする。外に出る際は、児童がお互いに協力して準備、活動できるように配慮する。見つけた対象について何かに例えたり触れたりするなどして特徴をとらえている児童に共感し、対話しながら児童なりの気付きを引き出す。また、これまでの経験を基に、自然の様子や特徴について気付いたり予測したりしている児童の発言を認め、全体に広げる。見つけた秋を発表する際には、「春に行った山もどうなっているかまた見に行ってみよう。」と思いを引き出し、次への活動の意欲を高めるとともに、今後の活動への見通しが持てるようにしたい。

小单元2では、学校周辺の野山を散策し自然を観察したり木の実を収集したりする。散策の際には、小单元1同様児童がお互いに協力して準備、活動できるように配慮する。お互いに見つけたもの、気付いたことについて対話しながら価値づけし気付きの質を高めていくようにしたい。そして、「みつけたよカード」に書き、春、夏の様子と変わっているところを話し合わせ、自分や友だちの学びを確かめる。さらに、「葉っぱを使って何かつくってみたいな。」「木の実でこまができそうだな。」と次時の活動への意欲を高める。

小単元3では、秋の自然の中で遊んだり、葉や木の実などの自然物を使った遊びを工夫したり、簡単なおもちゃをつくったりする。その際、児童とともに遊びを楽しみながら、秋の自然の特徴に気付き、夏の頃とは違う遊びの工夫など交流し紹介し合う時間と場を設定する。まとめの場面では、「もっとやりたい。」という児童の思いや願いを受け止め、次時への見通しを立てる。

小単元4では、秋の自然の中で活動したことを振り返り、友だちと紹介し合う。その際、児童がこれまでの活動を想起しやすいよう、活動場面の写真やこれまで書いてきた「みつけたよカード」などを提示する。発表に際しては、基本的な話形を提示し発表しやすくするが、自分の伝えたい表現の方法で様々な視点から自分との関わりで季節の変化をとらえるようにしていく。自然の様子や四季の変化、生活の様子の変化、自然物を利用した遊びなどについて紹介し合い、気付きを深め価値づける。交流し合う中で「もっとやりたい。」「〇〇をつくりたい。」など児童の発言から次時の活動につなげていきたい。

小単元5では、秋のおもちゃをつくる活動について話し合い、校庭や野山などで集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊ぶ。つくったおもちゃで友だちと一緒に遊びながら、もっと楽しく遊べるようにするにはどうしたらいいか、つくり方や遊び方を工夫させる。ペアやグループで対話しながら「つくるー遊ぶー改良するー遊ぶ・・・」を繰り返す。楽しみながら意欲的に取り組ませ、「自分たちだけでなく誰か他の人とも一緒に遊びたい。」と次時の活動に思いや願いをつなげる。

小単元6では、自分たちが作ったおもちゃや楽器で園児と遊ぶために話し合い、準備をして遊びを楽しむ。園児と遊ぶ時のルールを全体で確認し、園児に楽しんでもらえるよう計画を立てる。

園児との活動の際には、お兄さんお姉さんとして優しい声掛けができるよう配慮する。園児とともに秋の自然物を存分に使って、「秋は、楽しく遊べるものがたくさんある。」と秋を満喫させたい。そして、活動が終わった後には、「やって良かった。」「喜んでもらえて嬉しかった。」と達成感が得られる活動になるようにしたい。

3 単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使うものを工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができ、自然の様子や春・夏・秋の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするようにできるようにする。

4 単元の評価規準

	知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【態】
単元の評価規準	秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や春・夏・秋の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使うものを工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使うものを工夫してつくっている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。
小単元における評価規準	1 ①色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子と夏の校庭の自然の様子との違いに気付いている。	①幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。	
	2 ②身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気づいている。	②秋の自然の変化を予想して、夏の自然との違いを探している。	
	3	③秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいる。	①秋の自然と関わりたいという思いをもち、試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。
	4 ③季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。		

5	④いつも同じ現象が起こるなど、自然の中に一定のきまりがあることに気付いている。	④さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃをつくっている。	
6	⑤自分が遊びをつくり出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。 ⑥みんなで作った遊びをする際に、遊びのルールを守っている。		②自分で遊びをつくり出すおもしろさを実感し、これからも遊びをつくり出そうとしている。

5 指導と評価の計画（全 21 時間 本時 11 / 21）

小単元	時	学習内容（時数）	評価の重点			評価方法
			知	思	主	
小単元 1 (3)	2	校庭で、初秋の草花や樹木、虫などの動植物を観察したり、木の実などを使ったりして、その場で友達と簡単な遊びをする。		①		・ 発言 ・ 行動観察 ・ 記録カード
	1	夏の頃の様子と比べて、変わっているところを話し合い、記録カードにかく。	①			
小単元 2 (4)	3	学校周辺の野山で秋を探すことについて話し合い、ルールやマナーを守り、自然を観察したり木の実を収集したりする。		②		・ 発言 ・ 行動観察 ・ 記録カード
	1	教室に戻ってきて、野山での活動で楽しかったことや気付いたことについて話し合い、記録カードにかく。	②			
小単元 3 (3)	2	秋の自然の中で遊ぶ活動について話し合い、遊んだり葉や木の実などの自然物を使った遊びを工夫したり、簡単なおもちゃをつくったりする。		③		・ 発言 ・ 行動観察 ・ 記録カード
	1	秋の自然の中での遊びを振り返り、気づいたことを話し合い、記録カードにかく。			①	
小単元 4 (1)	1	秋の自然の中で活動したことを振り返り、友達と紹介し合う。（本時）	③			・ 行動観察 ・ 発表 ・ 発言
小単元 5 (6)	1	秋のおもちゃをつくる活動について話し合い、校庭や野山などで集めた葉や木の実、身の回りから集めた材料を使って遊ぶ。		④		・ 行動観察 ・ 発言 ・ 児童作品
	3	おもちゃや楽器を工夫して作りながら遊び、自分がつくったおもちゃや楽器を改良したり、つくるおもちゃを変えたりして楽しむ。	④			
	2	つくったおもちゃで友達といっしょに遊びながら、もっと楽しく遊べるようにつくり方や遊び方を工夫し、みんなでおもちゃを楽しむ。	④			
小単元 6 (4)	2	自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊ぶ計画を話し合い、準備をする。	⑤			・ 行動観察 ・ 発言 ・ 記録カード
	1	自分がつくったおもちゃで園児と一緒に遊びを楽しむ。	⑥			
	1	おもちゃをつくったことや遊んだことを振り返り、記録カードにかく。			②	

6 本時の指導

本時の目標	秋の自然と関わったことを振り返り、春・夏・秋の遊びを比べ、季節によって生活の様子が変わること気付く。	
観点別評価規準	季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。【知】	
準備物	記録カード 秋の自然物 秋のおもちゃ 児童の作品 ふりかえりシート	
学習の展開		
学習活動	児童の意識の流れ	評価規準【評価方法】
1. 秋さがして見つけた季節の変化や、自然物を利用して遊んだときの面白さについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・涼しくなった。 ・なつごろとさいている花がかわった。 ・せみやとんぼがいなくなった。 ・バッタやコオロギがいたよ。 ・どんぐりでこまができたよ。 ・葉っぱでちょうちよがつくれたよ。 ・まつぼっくりで作ったものをみんなに見せたいな。 ・どんぐりを使った遊びをみんなに紹介したいな。 	
2. 本時のめあてを確認する。		
めあて あきのおすすめをしようかいしよう		
3. 季節の変化や、自然物で遊ぶ楽しさを、「秋のおすすめ」として紹介する準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりごまを回しながら紹介しようかな。 ・どんぐりを使った遊び、みんなにもやってもらいたいな。 ・同じものをつくったから、〇〇さんと一緒に発表しよう。 ・夏と比べて紹介したら分かりやすいね。 ・はっきりした声で話そう。 ・作品を見せながら言うと分かりやすいね。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・伝える方法を考える。 1人で グループで ・発表の練習をする。 		
4. 秋さがして見付けたことや自然物で遊ぶ面白さについて、友達に発表し感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりのこまをつくってみたくなったよ。 ・葉っぱでいろいろな絵ができるね。 ・まつぼっくりに飾りをつけるとかわいいね。 ・秋は、遊びに使えるものがたくさんあるね。 ・もっといろいろなものがつくれそう。 ・秋の木の実や葉っぱを使って色々なものをつくってもっと秋を楽しみたいな。 ・ほかのだれかにも教えたいな。 ・年長さんと一緒に遊びたいな。 	季節によって楽しめる遊びが変わるなど、季節によって生活の様子が変わること気付いている。【発言・発表・振り返りシート】
5. 本時を振り返る。		

7 板書計画

